

みどりのこえ

秋号
2016



長野県環境保全研究所

平成28年(2016年)9月15日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



飯島町の道端のコマツナギにいたミヤマシジミ♂ (2016年7月)



文・写真 中村 寛志

臨床保全のすすめ

先日、飯島町の農家の方から電話がかかってきた。ミヤマシジミ幼虫の食草であるコマツナギを自分の田んぼの畔に移植したいのだが、という内容。早速出かけてみた。道端と水路の横にコマツナギの群落があり、ピンクの花盛りであった。さらに驚いたことに、きれいなブルーの翅をしたミヤマシジミのオスが3個体舞っていたのである。この方もミヤマシジミまで生息しているとは知らなかったようで、大喜びである。

人間の生活様式や農業技術の変遷に伴って里山の生物多様性が失われつつあるといわれて久しい。オオルリシジミは、食草であるクララが殺虫剤として利用されなくなり、雑草と一緒に刈り取られてしまったため生息地がなくなった。ではどうしたらこれら小さな生きものの絶滅を食い止められるのか。簡単な回答は一つある。以前のような方法で里山を管理していくことである。しかし、ボランティアだけでは、到底できない相談である。それなら絶滅危惧種を保全することによって、それに見合う経済的利益が得られる方法は？ミヤマシジミは食料にも薬にもなりそうにない。

しかし、電話をいただいた方は利害抜きで、希少な絶滅危惧種のミヤマシジミが私の田んぼの畔にいるのならぜひこいつを守って、孫子の代まで残していこうとの意見。私は信州のいろんな農家の方と話をしているが、環境に対する意識はかなり高い。早速、研究会で作ったミヤマシジミのパンフレットとコマツナギ移植マニュアルをお渡しして、畦畔管理に邪魔にならないコマツナギの栽培法を説明した。

私は、今年4月に信州大学の特任教授から、長野県環境保全研究所の生物多様性戦略アドバイザーになり、人と生き物が共存できる信州の環境づくりに取り組んでいる。今まさに人間の経済活動によって知らず知らずのうちに死に直面している小さな生き物を、地域の人とともにその生息現場で救っていくことは重要だ。私はこれを「臨床保全」と名付けた。そうすることによって生物多様性のホットスポットであるこの信州で、全国に先駆けて多様な生きものと共存し子孫へ残していける地域社会のシステムが築けるのではないかと考えている。(環境保全研究所 生物多様性戦略アドバイザー・信州大学名誉教授)

Contents

【巻頭言】 臨床保全のすすめ	1	【みどりのフカヨミ】 長野駅に現れたクマはどんなクマ？	8
【特集】 動物園の野生動物保護	2	【信州自然ガイド No.1】 富士見町入笠山	9
Mission: 傷病鳥獣を救護～野生復帰させる!	3	【こんなことやってるよ!】 植物標本ボランティアの活動紹介	10
Mission: 飼育下での繁殖技術を確立する!	4	【新スタッフから】	11
Mission: 地域の動物たちを見守り、環境教育の場として、未来へ!	5	【お知らせ】 EVENT 中間報告「サイエンスカフェを駅ビルにて開催中!」	12
【モニタリング報告】 5年間のセミの抜け殻調査から分かりそうなこと	6	ご案内 これからの催し	12
【フィールドノートから】 研究所敷地(長野市飯綱高原)のセミ類の変化	7		